

## 星舞台

取材の途中、農家レストラン・民宿「星舞台」に立ち寄りました。

経営者の野村良子さんは、「子育てが終わったなら、人とは違う生き方をしたいと考えていた」と、お店を始めた理由を話してくださいました。古民家を改装したお店は落ち着いた雰囲気のある雰囲気です。いろいろやまきストープ、店内に飾られたわらじや古民具は、どこか懐かしい気持ちにさせてくれます。

手打ちの檜山そばを中心とした食事は、檜山で採れる農産物がふんだんに使われていて、素朴な自然の恵みを感じることが出来ます。また、テーブルの上には花などがさりげなく飾られていて、細やかな気配りに心が和みます。

## 羽立地区

二ツ井町・山本町双方と接している羽立地区では、畠山良一さん、畠山哲夫さんにお話を伺いました。

羽立地区は周囲を山に囲まれていて、現在は28世帯が暮らしています。檜山町は昭和30年に能代市に合併されましたが、羽立地区に隣接する旧檜山町の揚吉・苅又石地区は、昭和33年に二ツ井町に編入されました。

昔は周辺一帯が林業を主な産業としていて、揚吉・苅又石地区のほか、二ツ井町仁鮎・濁川や山本町下岩川とも山林を通して盛んに交流していたそうです。

## ◎山を通してのつながり

羽立周辺の山はもともと良質な天然杉の産地でした。現在ある杉の木はすべて植林したものだということですが、間伐などが行われ、今でも立派な杉林が広がっています。かつては二ツ井町のあたりまで能代営林署の管轄で、一緒に作業をしていたそうです。冬になると、近隣地域や、遠くは青森県などから馬が連れてこられ、切り出した杉の運搬作業を行っていたそうです。馬は全部で120頭ぐらいも集



山本町との境界付近  
右の道…能代へ 左の道…山本へ

められたといえます。1頭の馬で、直径2尺、長さ12尺、体積5石ほどになる丸太4〜5本を数時間かけて能代まで運んだとのこと。この運搬作業は家族総出で行われ、男の人が馬そりをひき、女の人はそりが通りやすいように、道に積もった雪に水をかけて凍らせたということ。です。



二ツ井町との境界付近  
真ん中には山道の跡が見える

## ◎境界を探そう

山本町との境界は山の峰ではつきりしているのですが、二ツ井町との境界は複雑だということです。

集落から車で20分ほど旧2級林道の仙ノ台・檜山線(現県道294号線)を行くと、車1台がやっと通れるほどの道幅になりました。二ツ井町との境界には、これといって目印のようなものもなく、どちらを見ても同じような林が広がっていました。その林の中には、現在では人も通れないほどに草木が生えてしまっていますが、昔の山道と思われる跡がかすかに見られました。

## 取材を終えて

能代の境界を実際に歩いてみて、能代もずいぶん広いものだあと感じました。

境界線の取材ということでしたが、取材でお話を伺った人々の人柄や境界での生活など、そこに暮らす人々の姿が印象的でした。また、今につながる昔の様子は非常に興味深いもので、「昔を知り、未来を探る」姿勢が大切だと思いました。

周辺地域とのかかわりや昔の様子など、さまざまなつながりを知ること、普段暮らしている能代の新たな一面が見えてくるかもしれません。

春の一日、のんびりと能代の端っこを歩いてみませんか？